

2012年6月4~7日東北訪問レポート

東京大学大学院サステナビリティ学
教育プログラム修士課程2年

Yang Ying(ヤン・イン, 中国)



出発の盛岡駅にて

私にとっては東北を訪問するのは今回が初めてでした。盛岡駅に到着した時に、この地に立っていることが現実ではないような、不思議な困惑した気持ちになりました。盛岡市から大槌町に向かって車で移動している時に、外を眺めていましたが、山の緑がとてもきれいで、メディアを通じて見ていた被災地のイメージとはなかなか合致しませんでした。しかし、大槌町に近づけば近づくほど、状況は変化していき、仮設住宅が見えるようになってから、景色は一変しました。津波で流されたたくさんの家の土台が見え始めた頃には、私の思考が停止してしまうほど、悲しみがこみ上げてきました。



何もない大槌の街、城山からのぞむ



大きな被害を受けたまま残る建物

私は今回の訪問中、多くの時間をインタビューチームに同行し、被災事業者の方々のお話を伺いました。一日目は赤武酒造の古館さんを訪問しました。古館さんは冗談を言いながら雰囲気や和らげてくれて、苦勞を感じさせないような、にこやかな表情でお話をしてくれました。余談ですが、リカースイーツのヨーグルト味はとっても美味しくて私のお気に入りです。



ヨーグルト味！



山田の牡蠣くん 佐々木さん

二日目には「山田の牡蠣くん」でおなじみの佐々木さんを訪問しました。必ず山田町に戻って来て、山田町の牡蠣で生産を再開すると語る佐々木さんの力強い言葉に、強く胸を打たれました。

二日目は宝来館に宿泊させていただきました。到着後、学生数名で宝来館の避難経路を歩いてみましたが、20代の我々にとっても、登るのが大変な山道でした。お年寄りにとっては避難するのはとても難しいはず・・・。



宝来館裏の避難道

三日目には、釜石駅周辺を散策し、今後留学生を連れて行けるような場所を探しました。仮設商店街を覗いてみましたが、「仮設」という名前がついているものの、常設店舗と変わらない居酒屋が並んでいるように見えました。外国人の私にはしっかりとした「日本らしい」お店に見えました。

その後シープラザに足を運び、菊鶴商店さんを訪問しました。菊池さんや従業員の方が我々を笑顔で歓迎してくださいました。



釜石駅近くの仮設商店街



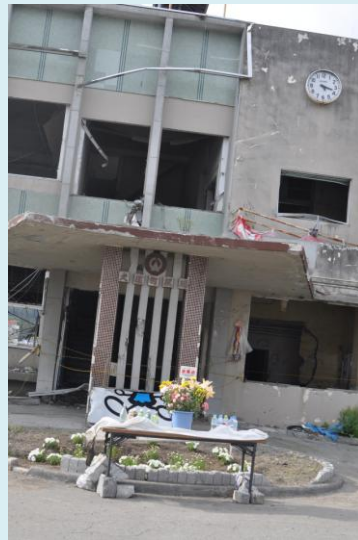
菊鶴商店さん

シープラザに置いてあった写真集を何気なく開いてみると、かつての釜石市の写真が目に入りました。写真に映ったその美しい街と、我々が訪れたこの何もなくなくなってしまった街を頭の中でリンクさせて見ると何ともいえない気持ちに

襲われました。何も無くなった土地に、お酒やお花が供えられているのを見て初めて、「ここに人が生活していたのだ」ということがわかるほど、何もない。町中には、「三陸復興！」といった力強い元気が出るような言葉が溢れています。が、実際の状況はまだまだとても厳しいものです。



写真集に残る震災前の大槌町



大槌町役場正面



家の基礎部と花や飲み物

三日目の夕方に、宝来館のスタッフでもあり、三陸人つなぎ自然学校を立ち上げた伊藤さんにお会いしました。様々なツアーを企画し、たくさんのツアー受け入れを企画している伊藤さんに、我々が考えている留学生ツアーのことを相談させていただきました。私は、そもそもたくさんの留学生を三陸に連れていくことに不安を感じていました。外者が、しかも外国人が、三陸を訪れることを地元の方々はどう感じるのでしょうか？私は地元の方が我々の訪問を嫌がるのではないかと、心配でした。しかし、伊藤さんとのミーティングを経て、その不安は和らぎました。伊藤さんは3.11をある種のチャンスと捉えているようです。元々、釜石市は過疎化・高齢化、観光客離れなどの問題に直面していたそうで、3.11を機に釜石市の観光業が盛り上がるなら、地元の方々は助かると言ってくださいました。

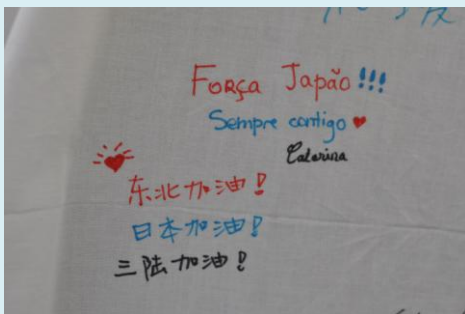


伊藤さん(左から3番目)

最後の夜は地元の農家さんである、小笠原さんのお宅にお泊りをさせて頂きました。小笠原さんたちは三世代が一緒に暮らしていて、そのライフスタイルはまさにサステイナブル。色々と勉強になりました。



おじいちゃん・おばあちゃんと



さんてつカフェに残した寄せ書き

復興への道のりはとても長い物となるでしょう。様々なセクターへのサポートが必要です。我々「おいしい三陸応援団」のような活動は本当にささやかなものですが、より多くの方が東北を訪れる後押しになればと思います。東北のお酒は、私が今まで試した他のどこのお酒とも違って、とても美味しいですよ。東北の人々に会いに、東北の食べ物を食べに、ぜひ東北を訪れてみてください。